

事後評価調書
【交通安全施設等整備事業】

主要地方道 香美久美浜線

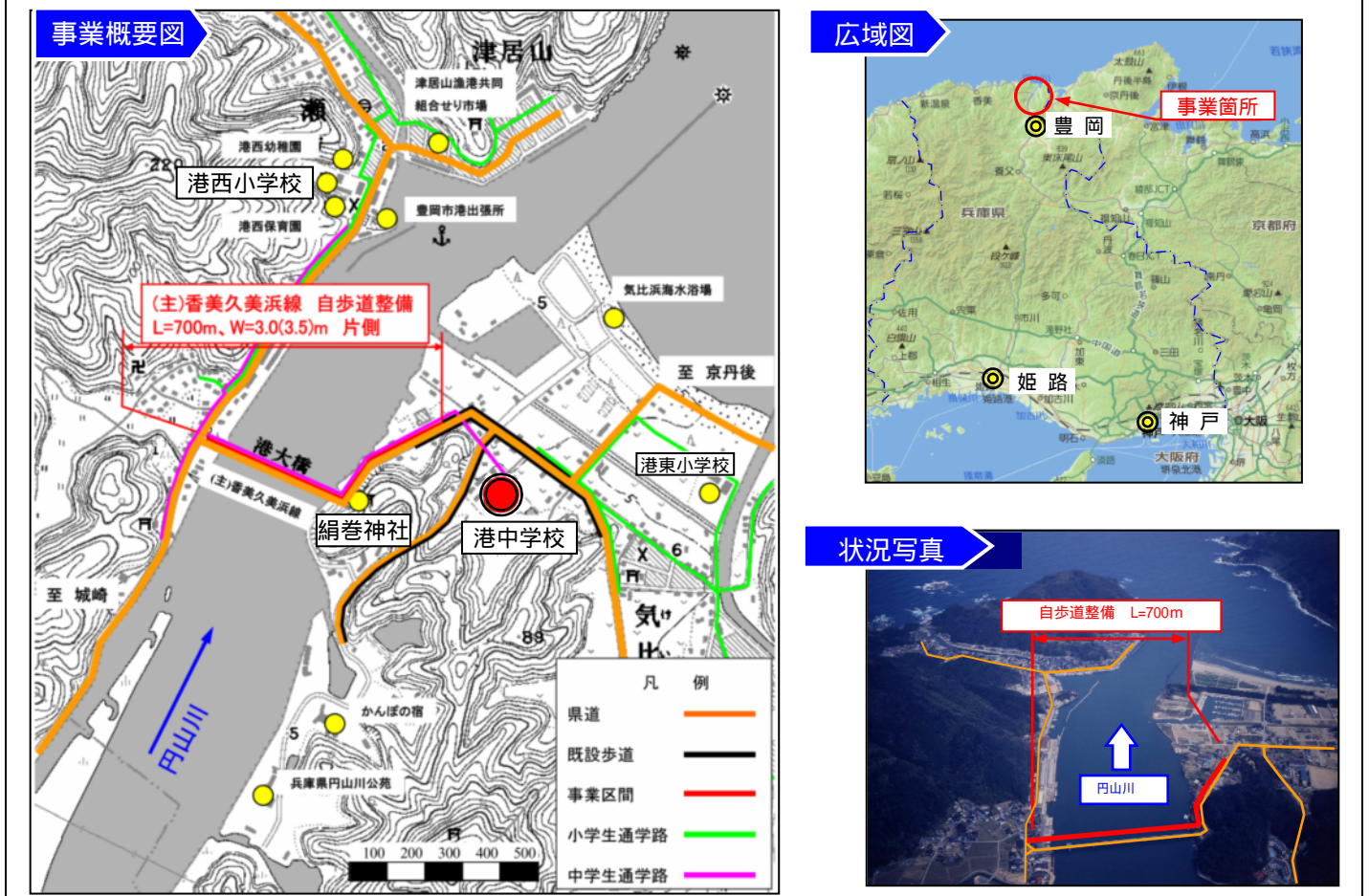
土木局 道路保全課

事後評価調書

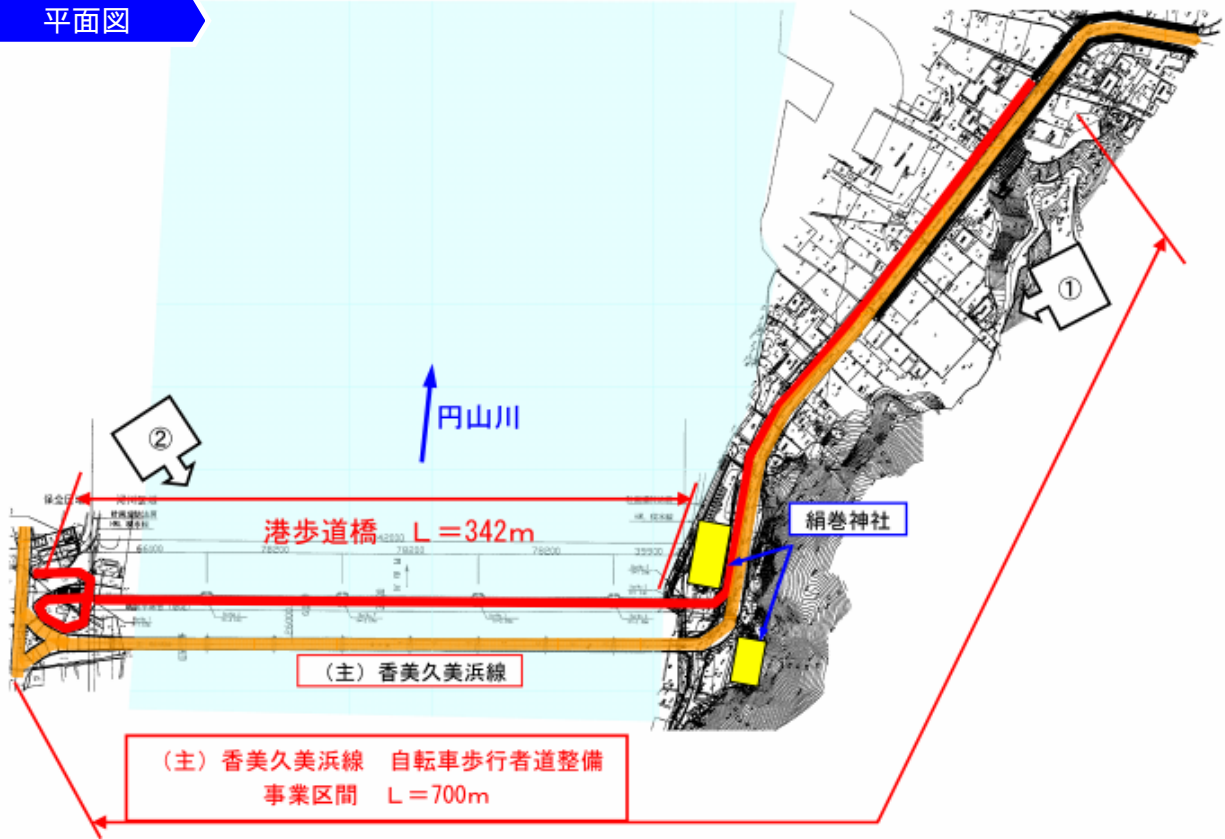
部課室名	県土整備部土木局 道路保全課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路保全課長 高瀬 陽太郎 (交通施設係長 横山 一也)	内線	4389 (4399)
------	-------------------	---------------------	---------------------------------	----	----------------

事業種別	交通安全 施設整備	事業名	交通安全施設等整備事業	事業主体	兵庫県
路線名	主要地方道 <small>かみくみはま</small> 香美久美浜線	所在地	<small>とよおかしおしま けい</small> 豊岡市小島～気比		
事業目的			事業内容		
<p>当該事業区間は、一級河川円山川で分断された豊岡市港地区の東西を結ぶ唯一の橋梁である港大橋を含んだ区間である。事業区間は港中学校の生徒が徒歩や自転車で通学利用しているが、自転車歩行者道が未整備で、特に当該地区では冬期の積雪時には通行できる幅員がさらに狭小となることから、歩行者や自転車が安全に通行することが困難であった。</p> <p>そこで、歩行者、自転車の安全な通行の確保を目的として自転車歩行者道を整備した。</p>			<p>自転車歩行者道整備（片側） L = 700m （うち単独歩道橋区間（港歩道橋）L = 342m） W = 3.0（3.5）m</p> <p>【交通量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業着手前（H13.5 実測） 自動車 4,723 台/日、歩行者 22 人/12h、自転車 191 台/12h ・事業完了後（H23.9 実測） 自動車 4,887 台/日、歩行者 60 人/12h、自転車 134 台/12h <p>【負担割合】 国：1/2 県：1/2</p>		
事業期間	計 画	平成 16～21 年度	事業費 (用地補償費)	計 画	約 19 億円（約 5 億円）
	実 績	平成 16～21 年度		実 績	約 25 億円（約 9.5 億円）
完了年月	平成 21 年 11 月		過去の評価	平成 15 年度 新規事業評価	

事業の概要



平面図



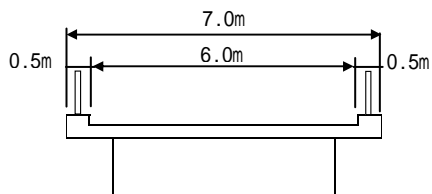
完成写真



標準断面図

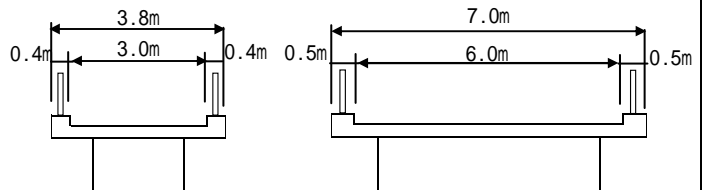
【橋梁部】

整備前

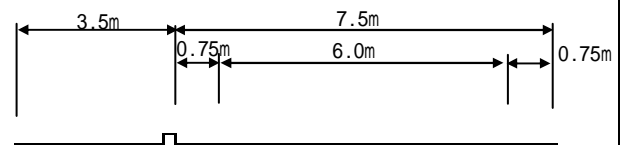
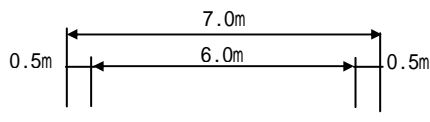


整備後

歩道橋 (港歩道橋)



【一般部】



事業を取り巻く社会経済情勢等の変化

(1) 人口、交通量の変化

豊岡市、港地区の人口は減少傾向であるが、事業区間の自動車交通量はやや増加しており、歩行者通行量も増加している。

[人口の変化]

	H13年	H23年	増減率	出典
豊岡市の人口(人)	92,503	84,876	-8.2%	兵庫県統計書
豊岡市港地区の人口(人)	3,710	3,124	-15.8%	豊岡市調べ

港地区：小島地区、瀬戸地区、津居山地区、気比地区、田結地区、畑上地区、三原地区

[事業区間の交通量の変化]

	H13年	H23年	増減率	出典
自動車交通量(台/日)	4,723	4,887	3.5%	実測データ
歩行者通行量(人/12h)	22	60	172.7%	実測データ
自転車通行量(台/12h)	191	134	-29.8%	実測データ

(2) 死傷事故件数の変化

[死傷事故件数]

	H13年	H22年	増減率	出典
兵庫県(件)	42,719	36,594	-14.3%	交通年鑑 兵庫県警察本部
豊岡市(件)	560	425	-24.1%	

[うち歩行者、自転車に関連する死傷事故件数]

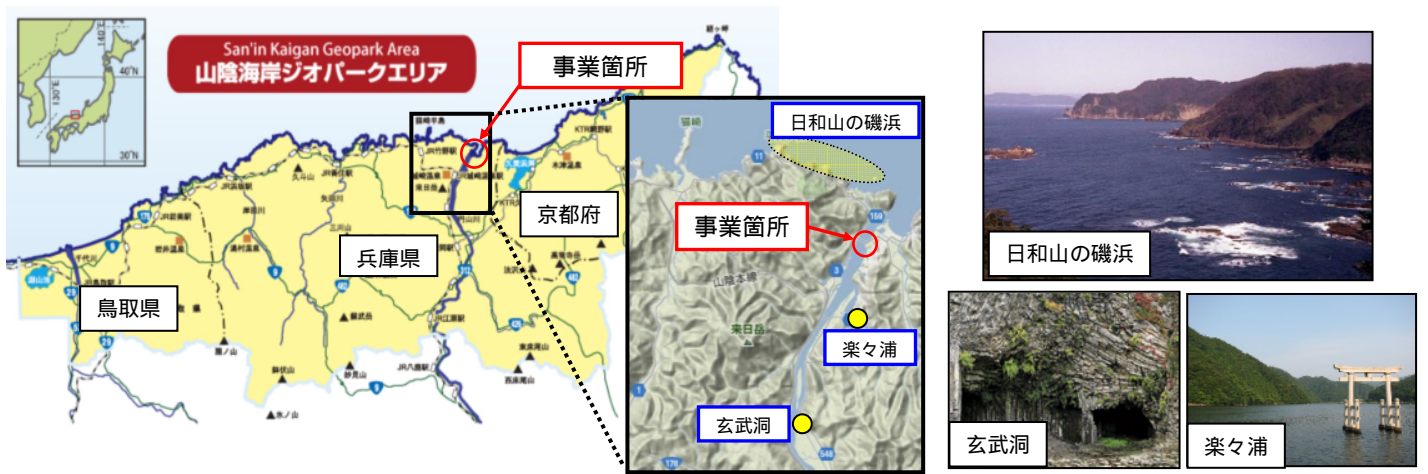
	H13年	H22年	増減率	出典
兵庫県(件)	12,050	11,219	-6.9%	交通年鑑 兵庫県警察本部
豊岡市(件)	147	104	-29.3%	

(3) 通学路の安全対策に関する社会情勢の変化

京都府亀岡市での通学中の事故を受け、平成 24 年 8 月までに通学路の緊急合同点検を実施し、11 月末までに安全対策を検討することとするなど、全国的に通学路の安全対策が喫緊の課題となっている。

(4) 山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟認定

山陰海岸ジオパークは、平成 20 年に日本ジオパークネットワークに加盟、平成 22 年 10 月 3 日には、世界ジオパークネットワークへの加盟が認定された。本事業区間は、円山川ジオエリア内に位置しており、周辺には日和山(ひよりやま)、楽々浦(ささうら)、玄武洞などのジオサイトがある。



事業の効果の発現状況

想定した整備効果等

整備後の状況

【直接効果】

1. 歩行者・自転車の安全性の向上

歩行者、自転車の通行位置の変化

自転車歩行者道の整備後、歩行者、自転車の9割以上が自転車歩行者道を通行しており、歩行者・自転車と自動車の接触する機会が減少し、歩行者、自転車利用者が安全に通行できるようになった。

整備後の歩行者、自転車の通行位置

	車道通行	歩道橋通行	合計	歩道橋通行率
歩行者(人/12h)	2	58	60	97%
自転車(台/12h)	10	124	134	93%

歩道橋整備後、歩行者、自転車の9割以上が歩道橋を通行

歩行者、自転車の通行状況

整備前

狭い路肩を歩行者や自転車が通行し、歩行者、自転車が安全に通行できない状態であった



整備後

自転車歩行者道の整備により、歩行者や自転車が安全に通行できるようになった



歩行者・自転車の死傷事故件数の低減

事業区間において、歩行者・自転車の死傷事故が整備前の5年間で2件発生していたが、事業完了後は自転車、歩行者に関する事故は発生していない。

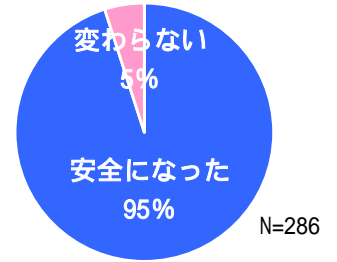
歩行者、自転車利用者が橋の通行が安全になったと認識

住民アンケートで、歩行者、自転車利用者の約 95%が安全になったと回答。

住民アンケート

実施日 : 平成 23 年 10 月 6 日 (木)
対象 : 港地区の住民 (歩行者、自転車利用者)
回収率 : 約 37% (317 枚 / 853 枚)

問 歩道橋の完成により橋の通行が安全になりましたか？



2. 自動車の安全性の向上

車道部の歩行者、自転車の通行の減少

狭い路肩を歩行者、自転車が通行し、積雪時には路肩の積雪により車両の通行幅が1車線程度となるため、自動車と自転車・歩行者との輻輳により、自動車が安全に通行できなかったが、車道と歩道が分離され、自動車の円滑な通行が確保された。

整備前

狭い路肩を自転車や歩行者が通行し、自動車が安全に通行できない状態であった



整備後

自転車、歩行者が自転車歩行者道を通行するようになり、自動車が安全に通行できるようになった

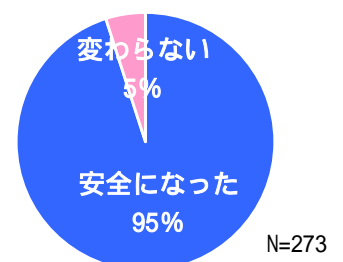


自動車利用者が橋の通行が安全になったと認識

住民アンケートで、自動車利用者の約 95%が安全になったと回答。

住民アンケート

問 歩道橋の完成により橋の通行が安全になりましたか？ (自動車利用者を対象)



3. 歩行者数の増加

港大橋を通行する歩行者数の増加

円山川で分断されていた港地区の東西を安全に移動できるようになり、ウォーキングやジョギング、右岸側に位置する絹巻神社への参拝等に利用する歩行者が増加している。

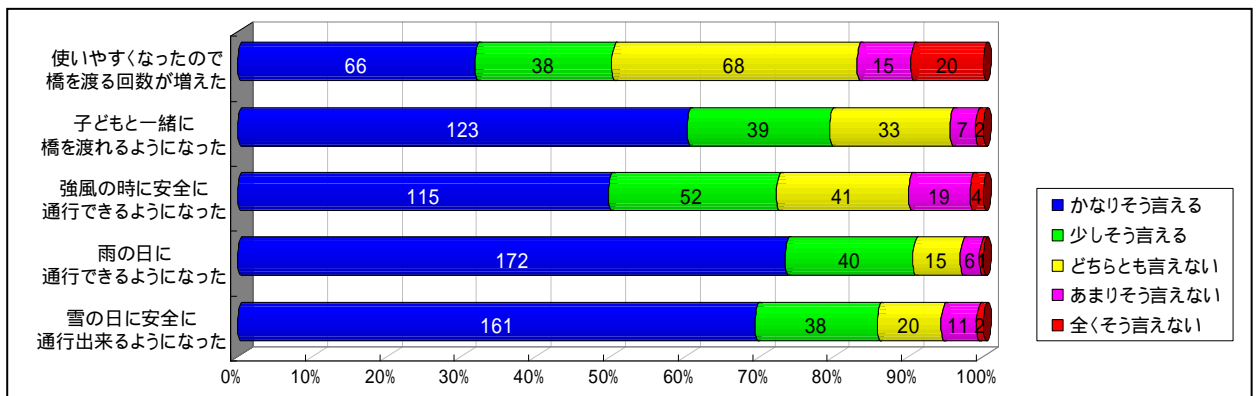
港大橋（港歩道橋）の歩行者数

(人/12h)

	H13.5.30 (整備前)	H23.9.28 (整備後)
歩行者	22	58
うち通学	13	12
うち通学以外	9	46

歩道整備後、通学以外の歩行者数が増加

住民アンケート



【間接効果】

1. 地域活動に寄与

円山川の左岸に位置する港西（こうさい）小学校の児童の円山川右岸の気比ノ浜への遠足や、港地区の全幼稚園・小学校・中学校の児童・生徒による気比ノ浜の清掃活動など、港地区における徒歩での校外学習や地域活動が安全に行えるようになった。



気比ノ浜清掃活動状況

2. 観光客の安全の確保

事業区間周辺には、但馬五社明神の一つである絹巻神社や海水浴やキャンプができる気比ノ浜、津居山漁港、県立円山川公苑、山陰海岸ジオパークのジオサイトなどの観光施設が多く点在しており、本事業は、周辺を周遊する観光客の安全性の向上に寄与している。



絹巻神社

事業実施による周辺環境への影響

事業区間は山陰海岸国立公園内に位置し、環境省山陰地区国立公園・野生生物事務所より、新設歩道橋は、周辺景観に配慮して既設の港大橋の色とのバランスを考慮するよう助言を受け、新設歩道橋の色は既設の港大橋と同じ青色とした。



港歩道橋（写真手前）
（写真奥は既設の港大橋）

特徴的な取組み

地域住民の参画と協働による事業計画の策定（H14年度）

港大橋における歩道設置は、地元からの強い要望があるものの、橋梁取付け部は人家が密集しており、また、港大橋の東側に位置する絹巻神社の敷地内を車道が通過しており歩道設置による神社への影響を最小限に抑える必要がある等、歩道橋の架橋位置を選定するには解決すべき課題が多く、円滑な事業の推進のためには、地域の方々の意向を取り入れて歩道橋の事業計画を策定する必要があった。

そこで、地域の方々や地区の区長等で組織する「協議会」で地域住民、事業計画を検討することとした。

(1)事業についての周辺地域住民・港中学校の生徒への意識調査

- ・協議会設立に先立ち、港地区（小島、瀬戸、津居山、気比、田結、畑上区、三原）の952世帯に港大橋の問題点についてアンケート調査を実施し（830世帯から回答 回収率87%）、回答者の約8割から、歩道が未整備であることが問題との回答があった。
- ・港中学校の生徒に港大橋のアンケート調査を行い、積雪時や強風時の通行が危険等の意見があった。

(2)協議会による港歩道橋の事業計画の検討

地域の共通課題である港歩道橋の歩道整備について、地域住民自らが考え、意見を出し合い、その結果を計画に反映させることを目的として、公募で選定した地域住民や地区の区長等で構成する「協議会」を設置し、地権者の意見も踏まえ、港歩道橋の架橋位置や右岸側の絹巻神社への影響について検討した。

《協議会メンバー》

公募住民（24名） 各区長・漁協組合長・各種団体代表（15名） 絹巻神社代表者（1名）
兵庫県・豊岡市（オブザーバー） コンサル（コーディネーター）

(3)周辺地区住民への周知

協議会での検討状況を周辺地区の全戸へ配布し、協議会活動や事業計画について周知に努めた。

【事業計画検討経緯】

港地区全世帯アンケートの実施（H14.9）

第1回協議会（H14.10）

協議会設立、全世帯アンケートの結果報告

第2回協議会（H14.12）

港歩道橋の架橋位置（上流側、下流側）や問題点についてグループ討議

第3回協議会（H15.1）

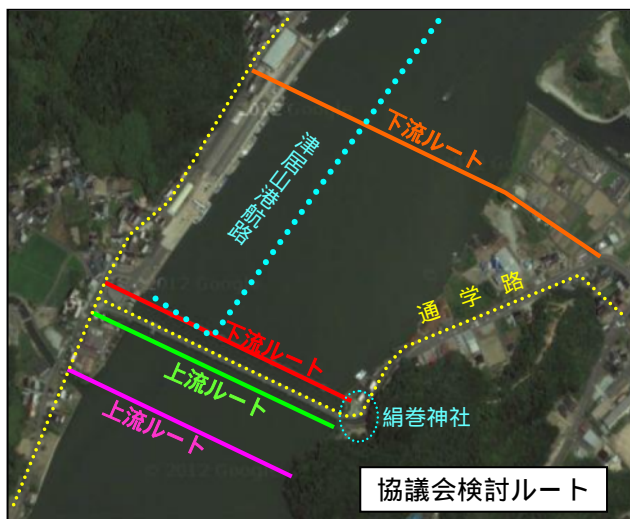
右岸側の絹巻神社への影響を踏まえ、右岸側の取付け部について意見交換

第4回協議会（H15.3.13）

地権者の意見ヒアリングの報告、協議会案の確認（全員一致で承認）

協議会での検討状況・検討結果について、港地区全世帯に広報（H14.11、H15.1、H15.3）

事業計画案策定段階で地権者へ計画案についてヒアリングを実施（H15.1～2）



港地区全世帯に配布した協議会案の最終報告

港大橋について考えよう！

広報NO.4
H18.3

住民の皆様方には、日頃より行政にご協力いただきありがとうございます。
これまで道路整備は車中心に進められてきましたが、近年は車椅子を利用される方や歩行者が安心して使える、「人によさしい道づくり」が求められています。
このような公共事業へ転換していくために、兵庫県では、平成11年度から「コミュニケーション型県土づくり事業」を実施しており、円山川の河口に架かる港大橋に関して、この事業の一つに位置付けて、地域の皆様とともに考えていきたいと考えております。
港大橋の歩道整備に関する取り組みでは、昨年11月より4回にわたって開催されました協議会において、様々なご意見、ご助言を頂きました。さらに、歩道橋の設置によりご迷惑をお掛けする地権者の方、漁協の方からも港地区全住民の長年の願いであり、交通安全のためでもあるということでご理解を頂きました。
3月13日に行われました第4回協議会におきましては、これらの方々のご理解を頂けたことをご報告し、また、河川管理者および港湾管理者からも本事業の方向性について了承を得られましたことをご報告し、下流側に真直ぐ架ける案が「協議会案」として、満場一致の拍手をもって承認され、兵庫県豊岡土木事務所に受理されましたことをご報告します。
地域の皆様方には、多大なご協力を頂き、心よりお礼を申し上げます。

1. 第3回と第4回協議会のご報告

■ 第3回協議会

日時：1月30日(木) 19:30~21:30
会場：港公民館 2階大会議室
参加者：住民代表者12人、国土交通省2人、兵庫県2人、豊岡市2人、コンサルタント6人

プログラム：

1. 前回の報告
2. 中学生へのヒアリングのご報告
3. 河川管理者との協議結果のご報告
4. 納善神社へのヒアリングのご報告
5. 両岸の取付に関する意見交換

報告の概要：

- ・中学生は、ほぼ全員が下流側を望んでいる。
- ・河川管理者の意向は、河川改修計画を満足する歩道橋を計画して欲しいということでした。
- ・納善神社の意向は、機能ばかりでなく、道路と神社が共に良くなるように考えて欲しいというものでした。

主な意見交換の内容：

- ・神社の理解が得られるならば、下流側に真直ぐ架けるのが良い。
- ・神社や左岸側地権者、津鹿山漁協の理解が必要である。
- ・神社が今よりも良くなるのが前提である。

■ 第4回協議会

日時：3月13日(木) 19:30~20:30
会場：港公民館 2階大会議室
参加者：住民代表者19人、兵庫県3人、豊岡市2人、コンサルタント4人

プログラム：

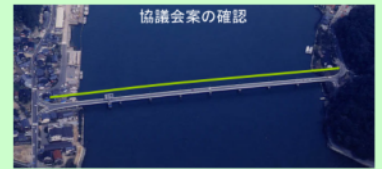
1. 前回の報告
2. 関係者との協議結果のご報告、意見交換
3. 協議会案の確認、意見交換

意見交換の内容：

- 1) 納善神社の総代の方から次のようなお話を頂きました。
いろいろな案を検討してきましたが、前提として歩道橋をつけることは必要であるし、神社としてそれに反対するものではありません。
歩道をつけるのであれば、神社の境内地を避けては通れません。上流側、下流側、すくなく上流側などのルートがりましたが、毎日利用する中学生のほとんどが下流側を望み、宮司も中学生の通う姿を見ており、賛成とまではいきませんがやむを得ないことだと考えています。
取り合いの道路については、境内地としての景観を損なわずに、出来るだけ歩道を広くして頂き、カーブを緩やかにして頂いて、歩行者、子供連、参拝者の安全に配慮した上で再整備をお願いして、下流側に付けることで神社としては了解させて頂こうという方向で考えています。
- 2) 津鹿山漁協の方から次のようなお話を頂きました。
下流側の歩道橋については、先日返事させて頂いた通り、反対するものではありません。
但し、同じく下流側に計画されている下水道工事については、港湾に関係するものにも、どのような影響があるかを総合的に検討して頂きたいと思っております。
- 3) その他の意見
港大橋の歩道整備は、平成7年から豊岡市ならびに兵庫県に陳情してきたことであり、皆様の多大なご苦労があり、また、地権者の方、関係者の方のご理解、ご協力を得て、こうした案が出来たということは、大変嬉しいことであります。
今の橋は6mと狭く危険であります。また、強風と積雪など非常に厳しい気象環境であります。この中を中学校の生徒達が毎日通っております。一刻も早く歩道橋を実現させて頂くことを要望致します。

協議会案の確認：

上記の意見交換を行いました後に、右の図に示します下流側に真直ぐ歩道橋を架ける案が、「協議会案」として満場一致の拍手を持ちまして承認されました。



(4) 港歩道橋整備後の協議会参加者へのアンケート調査

- ・港歩道橋整備後、協議会参加者を対象にアンケート調査を実施。(H23.10 回収 18 / 配布 30)
- ・協議会活動について肯定的な意見が多い。(約7割)

主なアンケート結果

- ・自分たちの意見を言うことが出来て良かった：かなりそう言える 67%、少しそう言える 11%
- ・自分たちの意見が反映されて良かった：かなりそう言える 50%、少しそう言える 28%
- ・公共事業への理解が深まった：かなりそう言える 33%、少しそう言える 39%
- ・今後も住民参加型の事業を行って欲しい：かなりそう言える 47%、少しそう言える 22%
- ・ルート選定の満足度：満足している 64%

地域の悲願 港歩道橋完成

豊岡市港地区の悲願であった港歩道橋が、平成20年12月27日、ついに完成した。この日は、港地区の住民ら約60人が、港歩道橋の完成を祝ってテープカットを行った。港歩道橋の完成は、港地区の住民らにとって、待ちに待った大きな出来事である。港歩道橋は、港地区の住民らにとって、待ちに待った大きな出来事である。港歩道橋は、港地区の住民らにとって、待ちに待った大きな出来事である。

住民ら60人渡り初め

港歩道橋が完成

中学生ら60人渡り初め



神戸新聞 平成 20 年 12 月 27 日

毎日新聞 平成 20 年 12 月 27 日

改善措置の必要性

特になし

同種事業の計画・調査・事業実施のあり方、事業評価手法の改善等

今回の事業では、歩道橋の架設位置について地元合意取得の難航が予想されたが、計画段階から地域住民と事業計画に関する協議会を設置し、地域住民の協力を得ながら計画を策定したことで、事業着手後、円滑に事業を推進し、期間の短縮を図ることができた。(H22.3 H20.12 暫定供用)

早期の効果発現が特に必要な交通安全事業においては、円滑に事業を推進できるよう、出来る限り着手前に事業の必要性について地元にて丁寧な説明を行い、地元総意で事業を実施できるようにすることが必要であると考えます。

(参考資料)

事業概要等の変遷

【平成 16 年度（新規事業評価）】

総事業費（うち用地補償費） C = 約 19 億円（約 5 億円）

事業期間 H16 年度～H21 年度末

【平成 21 年度（事業完了）】

総事業費（うち用地補償費） C = 約 25 億円（約 9.5 億円）

事業期間 H16 年度～H21 年 11 月

（事業費増加の主な理由）

- ・ 左岸側のスロープについて、冬期の積雪、路面凍結時の安全な通行を考慮し、スロープの勾配を変更（8% → 5%）したことにより事業用地の追加取得が必要となり、工事費が増加した。
- ・ 事業着手後、補償物件の補償額を算定するため、物件調査を行ったところ、補償額が増加した。